

“新型コロナウイルス感染症予防” 管理者による職場巡視を実施しました

3月27日（金）に、院内における新型コロナウイルス感染症予防の対応状況を確認するため、石田総括安全衛生管理者（医学部長）、大屋病院長、中村総括産業医による職場巡視を実施しました。

今回は、集団発生のリスク軽減の観点から、① 部署内の換気状況“**密閉空間**となっていないか”、② 人が多数集まる“**密集場所**の確認”、③ 間近での会話や食事といった“**密接場面**”，これら「**三密**」に着目して実施しています。



左から 松島産業保健師、中村総括産業医、大屋病院長、石田総括安全衛生管理者、田邊衛生管理者

巡視結果ですが、大学本部や本院が設置する「新型コロナウイルス感染症対策本部」から出された注意喚起事項が遵守されており、“定期的に窓を開けて換気すること”，“ミーティング等は対面で行わないこと”，“隣人と適当な距離をとること”等が実践されていることを確認できました。



①換気の悪い
密閉空間



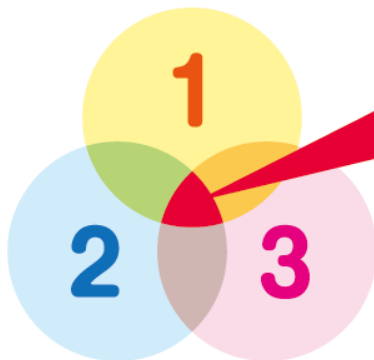
②多数が集まる
密集場所



③間近で会話や
発声をする
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。
イベントや集会で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には
消毒などを行ってください。

注) 厚生労働省作成「注意喚起ポスター」より転載しています。